

Disclosure 2021

ディスクロージャー誌



ふくほうのシンボルマーク

グリーンは地域の発展を示し、白とグリーンで円を描いている部分は、皆様と当行のふれあいを表しております。この三角と円のハーモニーによって全体にイメージされる「F」のデザインは、地域と皆様の繁栄に貢献し、未来永久に幸せをもたらしていきたいという当行の決意を示しております。

The Fukuho Bank, Ltd.

発行/2021年7月
編集/株式会社 福邦銀行 企画部
〒910-0023 福井市順化1-6-9
TEL/0776-21-2500 (代表)
<https://www.fukuho.co.jp>



見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用
しています。



この印刷には、
環境に配慮した
植物油インキを
使用しております。





取締役会長 **三田村 俊文**

取締役頭取 **渡邊 健雄**

日頃は福邦銀行をお引き立ていただき誠にありがとうございます。
 今般の新型コロナウイルス感染症に罹患された方々と、ご家族・関係者の皆様
 および感染拡大により影響を受けられた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。
 このたび、当行の経営方針や業績の概要などをまとめた「ディスクロー
 ジャー誌2021」を作成いたしました。ご高覧賜れば幸いです。
 さて、2021年3月期決算におきましては、地域社会を取り巻く環境は大きく変
 わりつつあり、新型コロナウイルス感染拡大によりその変化は一層加速している
 感がありますが、そのような時だからこそ、地域金融の原点を大切に良き伝
 統は守りつつも、一方で熱意と挑戦の気概を持って、変化にしなやかに対応して
 いきたいと考えております。
 こうした中、ともに福井県に本店を有する福井銀行との間で、地域経済の持続
 的発展とお客さまサービスの一層の向上等を目的とした「包括提携（Fプロジェ
 クト）」を進めてまいりました。「地域密着の徹底～育てる・支える・守る～」を
 基本戦略として、引き続き「地域のお客さまとともに成長する銀行」を目指して
 まいります。
 今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2021年7月

CONTENTS

ごあいさつ、プロフィール…………… 1
 経営理念・基本戦略…………… 2
 業績ハイライト…………… 3
 経営の組織…………… 5
 TOPICS…………… 6
 地域密着型金融の推進…………… 7
 コーポレート・ガバナンス…………… 10
 プライバシーポリシーほか…………… 13
 関係会社の状況・沿革…………… 14
 店舗一覧…………… 15
 主要な業務内容・役員…………… 16
 お知らせ…………… 17
 資料編…………… 18

プロフィール

(2021年3月末現在/単体ベース)

名称	株式会社福邦銀行 The Fukuho Bank, Ltd.
本店所在地	福井市順化1丁目6番9号
創立	1943年11月5日
資本金	73億円
総資産	4,852億円
預金	4,367億円
貸出金	3,131億円
自己資本比率	8.12% (国内基準)
店舗数	39カ店
従業員数	407名

経営理念

地域社会への貢献

私どもは幸せな人間生活と豊かな社会づくりに貢献すること
 を銀行活動の使命とします。

健全なる経営

銀行の発展は、地域社会への貢献の証しであり、私どもの存
 在を可能とするため、より健全な経営に心がけます。

活力ある職場

私どもが人間として尊厳を勝ちとるための練成の場として、
 明るく活力ある職場づくりに努めます。

福邦の心

至誠の心

信頼の絆と責任を自覚し、お客様にまごころを尽くします。

和の心

お互いの立場を理解し、喜びを分かち合う心を育てます。

進取の心

変化に対応する熱意と挑戦する心を養います。

共存共栄の心

お客様第一に徹し、共存共栄の心で奉仕します。

目指す銀行像

「地域のお客さまとともに成長する銀行」「相談しやすく親しみやすい銀行」

基本戦略

「地域密着の徹底～育てる・支える・守る～」

お客さまの成長・再生支援

- ・本業支援でお客さまを
「育てる」「支える」「守る」

業務効率化とお客さまサービスの向上

- ・店舗戦略
- ・事務・システム効率化

活力ある職場

- ・行員を「育てる」「支える」
- ・役職員間のコミュニケーション強化



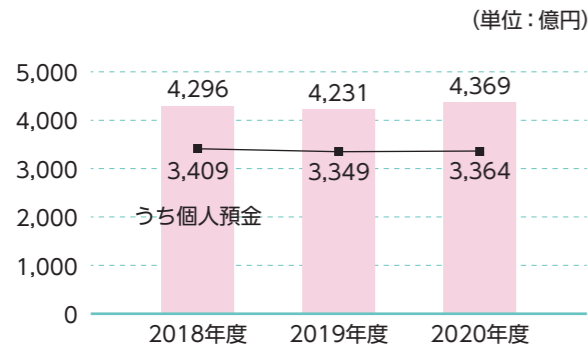
地域経済活性化に貢献

業績ハイライト

■ 預金等の状況 (単体)

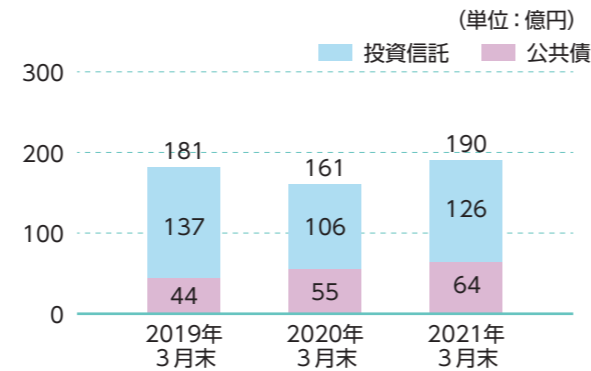
預金平均残高は、法人預金及び個人預金が増加したことにより、前年度比138億円増加し、4,369億円となりました。預かり資産残高は、投資信託及び公共債が増加したことにより、前年度比29億円増加し、190億円となりました。

預金平均残高の推移



(注) 譲渡性預金は含んでおりません。

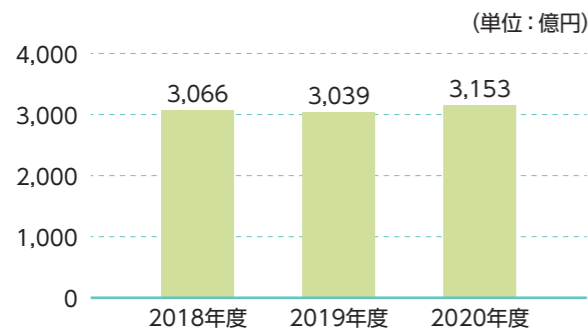
預かり資産残高の推移



■ 貸出金の状況 (単体)

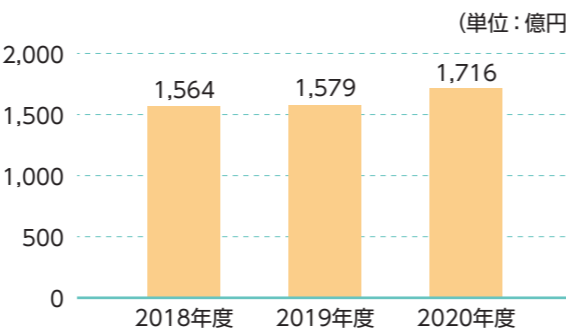
貸出金平均残高は、事業性貸出が増加したことにより、全体で前年度比114億円増加し、3,153億円となりました。中小企業向け貸出平均残高は、前年度比137億円増加し、1,716億円となりました。

貸出金平均残高の推移



(注) 中小企業とは、資本金3億円(ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円)以下の会社または常用する従業員が300人(ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人)以下の企業等です。

中小企業向け貸出金平均残高

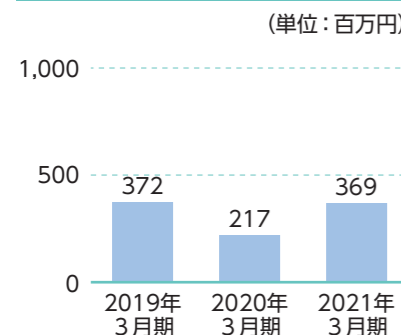


■ 損益の状況 (単体)

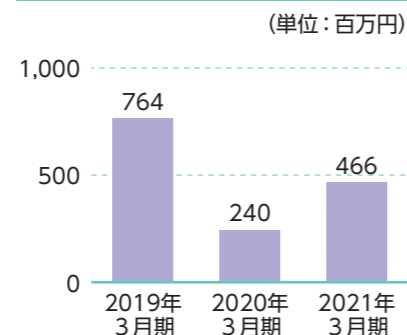
銀行の本業部分の収支を示すコア業務純益は、資金利益及び役員取引等利益が減少したものの、経費の圧縮に努めたこと等により、前期比1億51百万円増加し3億69百万円となりました。

当期純利益は、特別損益の減少や税金費用が増加したものの、経常利益の増加により、前期比54百万円増加し2億70百万円となりました。

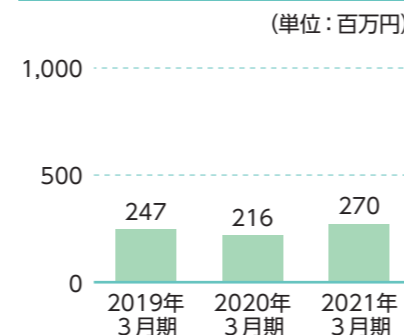
コア業務純益



経常利益



当期純利益



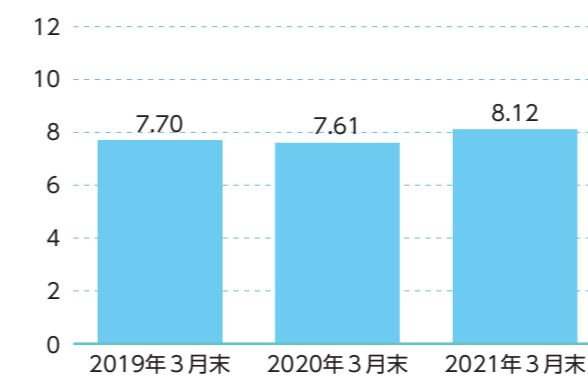
用語解説 (コア業務純益)

銀行本来の業務であげた利益から、業務を行う上でかかった経費と一時的な変動要因(債券関係損益と一般貸倒引当金繰入額)を差し引いたものです。

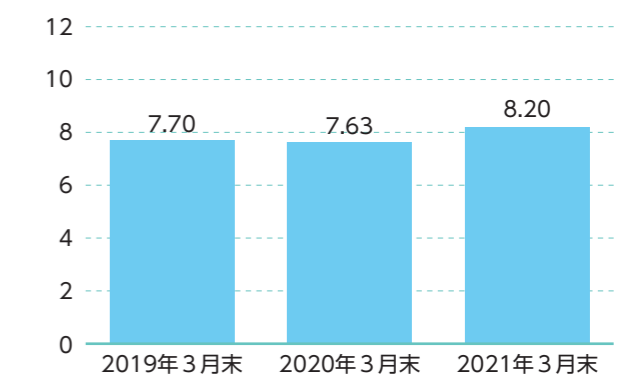
■ 自己資本比率の状況 (国内基準)

自己資本比率は銀行の安全性・健全性を示す重要な指標のひとつです。当行のように海外に支店を持たない銀行は国内基準の4%以上が義務付けられております。2021年3月末のリスク・アセット(万一の場合、貸倒れの危険性のある資産)に対する自己資本の額は銀行単体195億円、連結198億円となり、自己資本比率は単体8.12%、連結8.20%となっております。

(単体)



(連結)



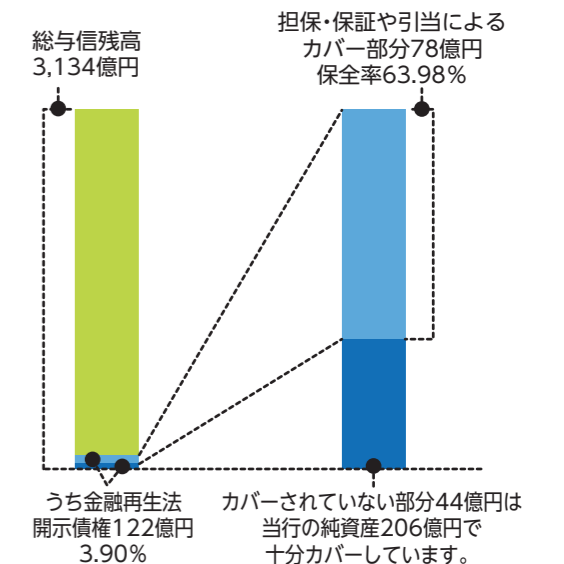
■ 資産査定状況

当行は、貸出金などの資産の価値に対して厳しく査定を行い適正な償却・引当を実施しております。また、積極的にお取引先に対する経営支援を強化しております。2021年3月末の金融再生法開示債権は前期末比5億円増加の122億円となりました。

なお、金融再生法開示債権122億円には、担保保証のほか、将来的に損失を被ることに備え、すでに費用として引当てしている部分も含まれております。開示債権に対する保全額は78億円、保全率は63.98%あり、将来的な損失にも十分に備えております。

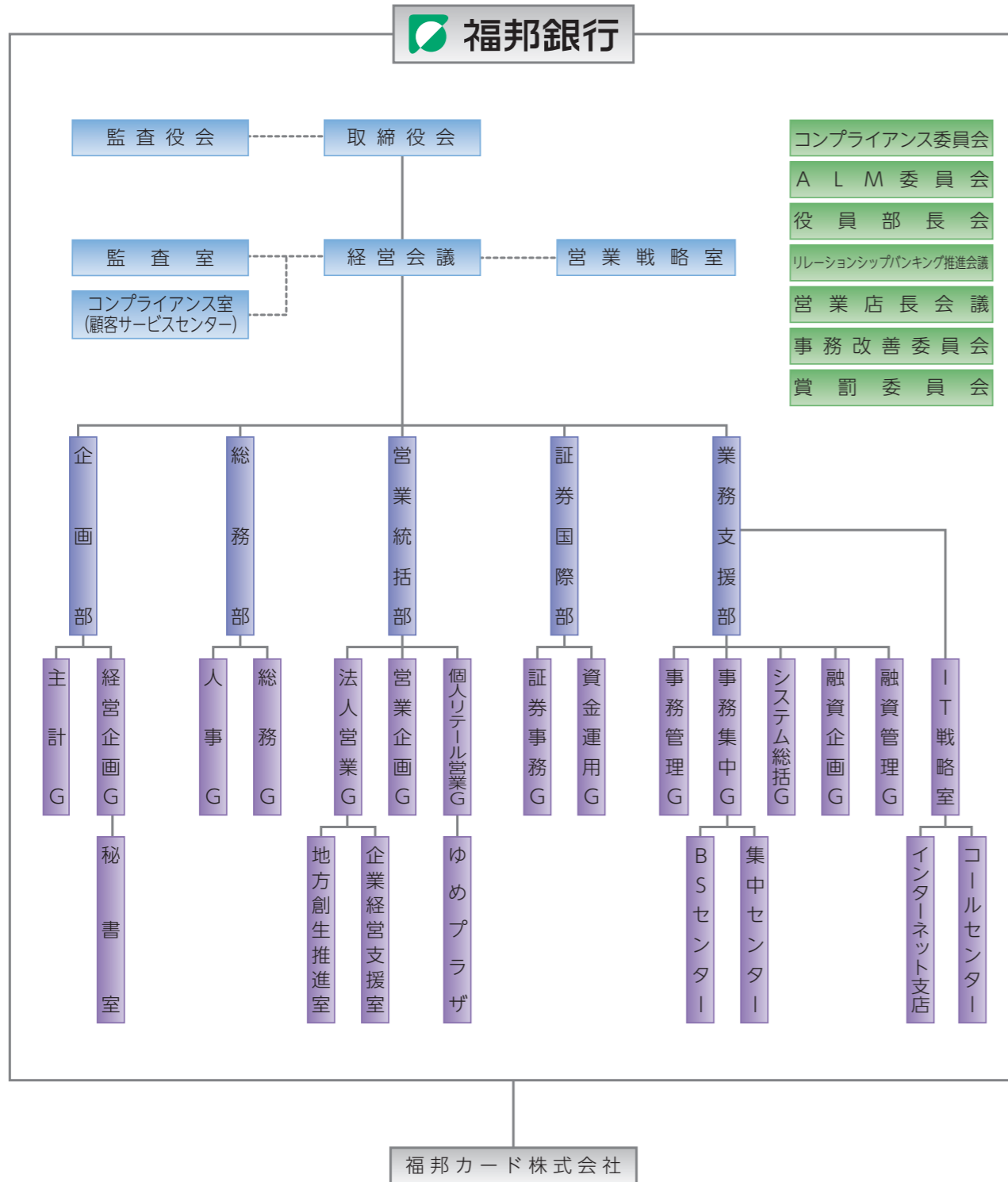
金融再生法に基づく開示債権額

	2019年3月末	2020年3月末	2021年3月末
金融再生法開示債権合計	12,012	11,722	12,238
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	1,715	1,542	1,622
危険債権	7,639	7,047	8,489
要管理債権	2,656	3,132	2,125
保全額	8,158	6,921	7,831
貸倒引当金	2,197	1,631	1,892
担保保証等	5,960	5,289	5,939
総与信残高(未残)	307,802	306,528	313,457



- ※①破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権
- ②危険債権とは債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権
- ③要管理債権とは3ヵ月以上延滞債権(元金または利息の支払が約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸出債権)および貸出条件緩和債権(経済的困難に陥った債務者の再建または支援を図り、当該債権の回収を促進すること等を目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定などを行った貸出債権)(注) いずれも①②を除く。

■ 組織図 (2021年7月1日現在)



■ 2021年5月 株式会社福井銀行との資本業務提携契約の締結 ～地域経済の発展に向けた包括提携（Fプロジェクト）の加速と深化～

両行は、相互の強みを活かし、お客さまの成長、発展のため、これまで以上に質の高いサービスを提供していくこと、また目前に迫る地域活性化の機会を最大限に活かし、地域の持続的発展のため、「Fプロジェクト」をさらに加速・深化させその効果を最大化させることを目指してまいります。

資本業務提携後も両行の2ブランドを維持することで、それぞれの強みを活かした金融グループとして一層の地域経済の持続的発展への貢献や、これまで以上に質の高いお客さま向けサービスの提供に努めてまいります。



■ シナジー効果の最大化・最速化



■ お客さま価値向上（トップライン）

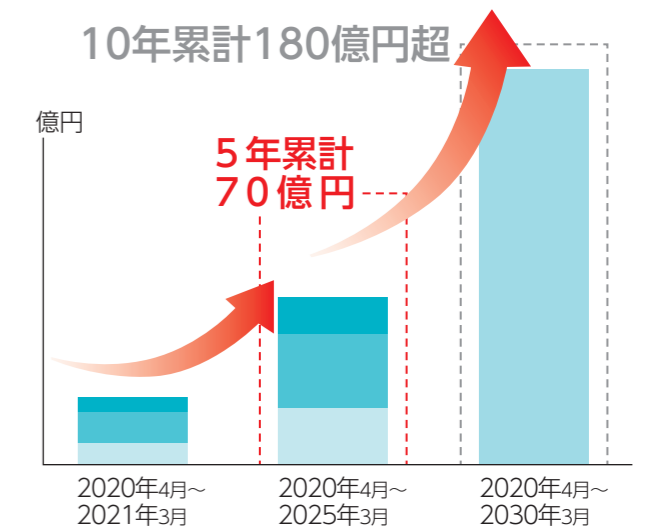
- ✓ 人員再配置により新規事業の展開や地域・お客さまに新たな価値を提供

■ 投資抑制

- ✓ 店舗・ATM戦略の連携やシステム共同利用により新規投資を抑制

■ 体質強化（コスト削減）

- ✓ 店舗・ATM戦略の連携や本部機能の統合によりコストを削減



地域密着型金融の推進

経営理念である「地域社会への貢献」のもと、創業来、当行はお客さまとの間で長く続いた親密な関係を強化・維持し、地域のお客さまのニーズに応じた経営資源の効果的な活用と、地域の情報ネットワークの活用と連携により、金融仲介機能を強化し、持続可能な地域経済への貢献を行うことを基本方針としております。

中小規模事業者を始めとするお客さまとの継続的なつながりと信頼のもとに、本業支援を通じてお客さまの満足度を高め、成長・再生を支援し、地域・お客さま・当行の3者がともに成長するというモデルを目指しています。この目的を強力に推進するため、包括連携先である福井銀行と連携し地域経済活性化に寄与する諸施策を行ってまいります。

1. 中小企業の経営支援に関する取組み状況

【2020年度の経営支援全般に関するベンチマーク】

(1) お取引先の経営改善や成長力の強化

ベンチマーク	項目	指標
当行がメインバンクとなっているお取引先数（単体ベース）および融資残高と経営指標に改善が見られた先数と同先に対する融資残高	メイン取引先数	1,303先
	メイン取引先への融資残高	752億円
	経営指標が改善した先数	685先
	経営指標が改善した先への融資残高	517億円

※経営指標が改善した先数は、売上高・営業利益率・従業員数のいずれかが改善した先を計上しております。

(2) お取引先の抜本的事業再生等による生産性の向上

ベンチマーク	全与信先	創業期	成長期	安定期	低迷期	再生期
ライフステージ別与信先数	4,853先	405先	269先	3,276先	291先	612先
ライフステージ別融資残高	1,949億円	122億円	191億円	1,373億円	45億円	216億円

※ライフステージについては与信先で過去5年間の売上高を把握して区分しております。

創業期：創業から5年までの先
成長期：売上高平均で直近2期が過去5期の120%超の先
安定期：売上高平均で直近2期が過去5期の120%～80%の先
低迷期：売上高平均で直近2期が過去5期の80%未満の先
再生期：貸付条件の変更または延滞がある先

①創業等支援

・当行は、創業等への融資のみならず、創業計画書、補助金等の策定支援や政府系金融機関との協調融資を行い、着実な事業の安定化に向けた支援に努めております。

ベンチマーク	指標
当行が関与した創業、第二創業の件数	185件

ベンチマーク	①	②	③	④
創業支援先の支援内容別（①創業計画との策定支援、②プロパー融資、③保証協会融資、④政府系金融機関との協調融資）	121先	55先	66先	6先

②本業支援

・当行は、福井県・石川県・京都府・大阪府の営業店ネットワークを活かし、お取引先の「事業ニーズ（売上・仕入・不動産活用などのニーズ情報）」をもとにビジネスマッチングの提案を行い、お取引先の成長支援に努めております。お取引先の販路開拓を支援する「ふくほうトップラインサポート」を展開しております。

ベンチマーク	福井県内	福井県外	海外
販路開拓支援を行った先数	223先	155先	0先

③事業承継支援

・当行は、事業承継ニーズに対する課題解決の支援や必要な資金を融資するなど事業承継支援に努めております。2019年には、当行と金沢信用金庫、富山銀行による北陸3県連携ネットワークを構築し、後継者難に悩むお取引先に向けて、専用サイト「事業引継ぎ.net」（運営：インクグロウ㈱）を開設しております。2020年には、福井銀行と連携し、福井・丹南・若狭の3会場で「事業継続・承継・引継相談会」を開催しました。

ベンチマーク	指標
事業承継支援を行った先数	27先

④事業再生支援

・当行は外部支援機関との連携により、お取引先の経営改善・事業再生に努めております。

ベンチマーク	条件変更先総数	好調先	順調先	不調先
貸付条件を変更しているお取引先の経営改善計画の進捗状況	540先	26先	47先	467先

※不調先には計画未作成先412先を含んでおります。
好調先：経営改善計画指標に対し120%超の先
順調先：経営改善計画指標に対し120～80%の先
不調先：経営改善計画指標に対し80%未満の先

・当行は(株)地域経済活性化支援機構と「特定専門家派遣」の契約を締結しているほか、外部のコンサルティング会社等と提携し、お取引先の経営課題に応じた最適なコンサルティングを提供できる態勢整備に努めております。

ベンチマーク	項目	指標
外部支援機関の利用先数	(株)地域経済活性化支援機構（REVIC）	0先
	中小企業再生支援協議会	8先

※(株)地域経済活性化支援機構の「短期トレーニー制度」を活用し、これまで行員2名を同機構に派遣しております。

(3) 担保・保証依存の融資姿勢からの転換

・当行は、事業性評価により将来性を重視した融資を行い、お取引先の成長・改善支援に努めております。

ベンチマーク	先数	融資残高
事業性評価に基づく融資を行っている与信先数および融資残高	1,624先	636億円
上記計数の全与信先に対する割合	33.4%	32.6%

※事業性評価に基づく融資については「創業・新事業」「医療介護分野」「担保・保証に過度に依存しない融資」「事業承継」「事業性評価チェックシートによる事業性融資」等にかかる融資としております。

・当行は、「経営者保証に関するガイドライン」の趣旨を踏まえ、経営者等の個人保証に依存しないお借入の一層の促進を図るとともに、保証契約の締結、見直し、整理について適切な対応に努めております。

ベンチマーク	活用件数
経営者保証に関するガイドラインの活用件数	1,145件
上記計数の新規融資に占める割合	28.4%

(4) 行内の人材育成

・当行は、お取引先の経営課題に対して最適な解決策を提示できるコンサルタント能力を身に付けた「法人営業マイスター」を育成し、2020年4月より更なる専門性を高めた行員を「法人営業シニアマイスター」とする制度としております。

ベンチマーク	認定者数
「法人営業マイスター」の認定者数	23名
「法人営業シニアマイスター」の認定者数	1名

地域密着型金融の推進

2.地域の経済活性化への積極的な支援

当行は、「地方版総合戦略」への積極的な情報提供・提案等を推進するにあたり、2015年4月に「地方創生チーム」、2017年4月からは「地方創生推進室」を立ち上げ、福井県内6市2町と地方創生に関する連携や、地域活性化を目的とするまちづくり会社に出資するなど、地域経済の活性化に向け県市町とともに連携を図ってまいります。

地公体名	連携内容	締結年月
勝山市	包括的地域連携協定、まちづくり会社への出資	2015年7月
越前市	包括的地域連携協定、まちづくり会社への出資	2015年8月
鯖江市	クラウドファンディング（購入型）	2016年12月
小浜市	クラウドファンディング（投資型）	2017年1月
大野市	包括的地域連携協定	2017年1月
高浜町	包括的地域連携協定	2017年1月
永平寺町	包括的地域連携協定、まちづくり会社への出資	2017年5月
坂井市	包括的地域連携協定	2017年8月

3.地域や利用者に対する積極的な情報発信

当行は、株主の皆さま、お客さまおよび地域社会の皆さまに当行の経営に対する理解を深めていただき、経営の透明性を確保することを目的として、プレスリリースやディスクロージャー誌、ホームページの掲載を通じて、迅速かつ充実した情報開示に取り組んでまいります。

4.目標計数の達成状況

(単位：先)

	2020年上期			2020年下期		
	目標	実績	目標対比	目標	実績	目標対比
経営改善支援等取組先数	635	874	+239	637	868	+231
創業・新事業開拓支援	101	93	△8	101	92	△9
経営相談・早期事業再生支援	498	768	+270	500	758	+258
事業承継支援	33	11	△22	33	16	△17
担保・保証に依存しない融資推進	3	2	△1	3	2	△1